

さわやか

西美濃厚生病院だより

第78号

平成28年1月

病|院|の|理|念|

私たちは今、三つの「想い」を育んでいます。

- 1.患者さんへの「想い」
温もりと対話のある医療を実践します。
- 2.地域社会への「想い」
地域に有用な医療機関として社会に貢献します。
- 3.病院への「想い」
良質な医療を提供し、信頼される病院を目指します。
これが私たち西美濃厚生病院の理念です。



目次

- 岐阜県厚生農業協同組合連合会
経営管理委員会会長
堀尾 茂之「年頭のご挨拶」
- 病院長 飯田 辰美
「今考える10年後」
- 言語聴覚士 正山 薫
「言語聴覚士を知っていますか？」
- 農業祭に参加して
- 外来診療担当医一覧表

年頭のご挨拶



岐阜県厚生農業協同組合連合会
経営管理委員会会長

堀尾 茂之

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、格別なるご高配を賜り厚くお礼申し上げます。平成28年の年頭にあたり、皆様に一言ご挨拶申し上げます。

昨今の医療を取り巻く環境は、急速な少子高齢化が進むなか、団塊の世代が75才以上を迎える平成37年(2025年)を前に社会保障制度の行き詰まりが懸念されています。国は、社会保障と税の一体改革として、医療・介護サービス強化のため、「地域包括ケアシステム」の構築や患者のニーズに応じた病院・病床機能の役割分担など、医療と介護の連携強化を通じて、より効率的・効果的で質の高い医療提供体制の整備を図ることを目指しています。

平成27年4月からは、「地域医療構想策定ガイドライン」に基づき、医療の提供体制が一つの病院で完了する「病院完結型」から、地域全体で急性期から回復期、在宅療養に至るまで切れ目ない医療を提供する「地域完結型」への転換が進められ、同時に高齢化の進展に伴う疾病構造の変化から、「治す医療」から「治し、支える医療」への転換が求められています。

医療や介護が必要な状態になっても、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続できるような生活環境づくりと健康寿命の延伸の観点から予防・健康づくりへの取組みがますます重要となってきます。

このような情勢のなか、本会においても、地域の医療提供体制と医療需要を検証し、地域医療構想における病床機能の再編を視野に入れたうえで、公的医療機関として、また、地域の中核病院として、良質な医療を持続的・安定的に提供できるよう経営基盤の確立を図り、救急医療、がん診療、生活習慣病の予防や介護の支援、災害時における医療チーム派遣など、地域医療に貢献していく所存であります。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして幸多き年となりますよう心より祈念申し上げますとともに、引き続き本会事業にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



病院長	飯田 辰美
事務局長	佐藤 義勝
副院長	岡野 学
副院長	西脇 伸二
看護部長	高木 良里子
職員	一同

新春を迎え
皆様のご健康と
ご多幸を
心よりお祈り
申し上げます。

謹んで新春の
お慶びを
申し上げます

今考える10年後



西美濃厚生病院
病院長 飯田 辰美

新春を寿ぎ、心よりお喜び申し上げます。

火山噴火とテロ、南沙諸島問題、航空機事故と建築偽装・エアバッグ事故と安全を脅かすニュースが続いた2015年でした。しかしながら、暑い夏を過ぎたころからH2商業衛星ロケット成功、はやぶさ2、ノーベル賞ダブル受賞、MRJ初飛行、金星探査機あかつきのカムバック、ホンダジェット形式証明取得と科学の朗報が相次ぎ、ラグビー活躍が年末を盛り上げてくれました。平成28年も無事明けて、皆様方におきましては健やかな一年が過ごせますよう心より祈念いたしております。堀尾会長のもと職員一丸となって、地域医療に邁進致す所存であります。

病院におきましては、今年も越えなければならない幾つかのハードルが待ち受けております。春の診療報酬改定、若手医師を中心とした人材確保、病院ベッドの機能分化を明確化させる地域医療構想調整会議と大きなハードルだけでも3台あります。この3台のハードルは微妙にリンクしており、相互に影響を及ぼしあう関係にもあります。

日本の人口減は明らかで、西濃圏域でもその傾向は例外ではありません。しかし、75歳以上の高齢者人口は逆に増加が著しく、これも全国的傾向であります。医療圏調整会議は人口減を受けて、病床の削減・在宅介護への転換を指導してきています。ところが現場では、有病率の高い高齢者が増えるわけですから、医療病床のニーズは上昇し、急性期病床の急激な削減には合わない部分も生じております。地域医療のニーズは急性期医療から介護まで幅広くあって、ある領域に特化するのには効率的かもしれませんが、移動手段の少ない地域の人たちにとっては、不便のように思えます。

移動手段や道路網の発達で確かに人々の移動時間は短縮され、日本も地球も狭くなったと言われます。ところが車にも乗れない、家族も近くにいない高齢者にとって、目の前の高速道路の恩恵は届きません。こうした高齢者が急激に増加し、こうした高齢者を支える若者が急激に減少するなかで、医療は対応を迫られているわけでありです。急性期・慢性期という役割分担の一言でかたづけられない身近で気軽に利用出来る幅広い医療が必要です。現実ではこうしたニーズを持ったお年寄りが増加しています。

今年も「夢と希望と目標」を旨に、15診療科315床、西南濃地区の基幹病院として、多くの専門医・専門スタッフ、最新機器を有する急性期病院として地域医療を担ってゆきます。知識・技術の研鑽を行いつつ、診察枠の増加などスタッフの充実にも努めてまいります。昨年立ち上げた内視鏡センターによって診断のみならず、低侵襲な内視鏡治療も充実してきました。遅まきながら電子カルテ化を行い、放射線科医師の診察枠を加え、診断の精度の向上、情報のいち早い共有化にも取り組みます。

さらには地域に密着して、救急患者さんの受け入れをよりスムーズにできるよう、一般急性期病床はフル稼働できる体制を維持しています。高齢や病状の変化により、療養施設での生活が難しくなった方には、地域包括ケア病棟がいつでも受け入れ体制を整えています。さらに長期の療養を要する方には療養病床での、柔軟な入院治療も可能であります。

近隣の医療機関と連携し、先進医療機器を共同活用していただき、救急や健診活動や訪問看護など地域とつながる多様な医療活動にもつなげて行ければと頑張っております。3大疾病である癌に立ち向かい、各科で癌専門家を有しています。癌治療認定医機構認定施設として癌治療にも引き続き力を入れていきます。

もっとも手厚い7対1看護で、安全を担保した急性期医療を軸に、地元で一貫した医療が受けられること、すなわち「地診地療」を今年も展開します。これこそが患者様・医療者双方に安心感・信頼感・自信をもたらします。人材・病院・地域医療のバランスのとれた進歩を職員一同日々目指しております。本年もどうぞよろしくお願いたします。

言語聴覚士を知っていますか？



言語聴覚士
正山 薫

皆さんは「言語聴覚士」をご存じでしょうか？当院にはリハビリテーション科に3名の言語聴覚士が配置されています。

言語聴覚士のことを英語ではSpeech-Language -Hearing Therapist (略称ST)と訳されているように、ことばや聞こえ、認知、嚥下(飲み込み)などに問題を抱える方に対しての援助を行っています。具体的には脳卒中などが原因で発生する失語症、聴覚障害、ことばの発達の遅れ、声や発音の障害、高次脳機能障害、また食べ物をうまく飲み込めない嚥下障害などが訓練の対象となり小児

言語・高次脳機能

ことばの発達の遅れ、自閉症スペクトラム障害、学習障害や失語症、記憶障害などに対するリハビリを行います。

当院の言語聴覚士の仕事

声や発声

声がない、発音が不明瞭、ことばのリズムが乱れるなどの症状を訴える方の評価・訓練を行います。

飲み込み

病気や障害、加齢などによっておこる食べ物を咀嚼したり飲み込んだりすることが難しくなる症状を評価し、患者様に合わせた栄養摂取のスタイルを確立します。

から高齢者まで幅広く対応をしています。

さて、リハビリと言えばまず皆さんが思い浮かべるのが理学療法ではないでしょうか。言語聴覚療法は1997年に

言語聴覚士法が制定され1999年に国家資格として誕生したまだ新しい専門職です。有資格者数は2015年に全国でやっと約2万5千人となりましたが、理学療法士の数は既に10万人を超えている現状と比較すると随分数が少ないといえます。(ちなみにアメリカには約15万5千人以上の言語聴覚士がいるそうです。)少子高齢化が進み発達障害児の療育指導、高次脳機能障害者の社会復帰支援、認知症高齢者の介護予防を含む指導、摂食嚥下障害者への指導などが急務とされている今の社会においてことばに障害をもつ人の数だけでも約650万人もいるというデータもあるというのですから需要に対しての絶対的な供給数の不足があるといえます。

《話すことから食べることまで幅広く対応しています》

現在日本人の死亡原因の第3位が肺炎です。肺炎が死亡原因の第3位になったのは、高齢化が進んでいることが原因であると言われていています。なぜなら、高齢者は肺炎を発症することが多く、わずらうと重症化して死亡することが多いからです。肺炎を原因とした65歳以上の死亡率は96%と非常に高く、90歳以上では死亡原因の第2位に順位が上がります。このような背景を反映してか、最近では当院でも食欲不振やうまく飲み込めない、頻繁にむせてしまうなどの主訴でリハビリの処方が出る患者様が増加傾向にあり、特に摂食・嚥下領域でのニーズの高まりを実感しています。実際の臨床の場では、たった一口のゼリーが食べられなくて、たったスプーン1杯のお水も飲むことができずに困っている多くの患者様を目の当たりにしています。『たったひとくち、されどひとくち』『一口食べることの難しさ』を十分理解しつつ、出来得る限り患者様やその御家族様の希望を尊重しながら食支援していくことを心がけるようにしています。

農業祭に参加して

西美濃地域のJAにしみの各地域（不破地域・養老地域・海津地域・大垣地域・神戸地域・安八地域）において、去る10月24日から11月29日までの間に農業祭が開催されました。前年までは、大垣地域の農業祭のみ出展していましたが、本年度より各地域の農業祭に出展ブースを頂き、血圧測定、体脂肪測定・血管年齢（血管年齢については一部地域）と病院のPRの出展及び救護班の派遣をいたしました。天候に恵まれた日



や雨の日などありましたが、健康に対する意識がどの地域も我々の想像以上に高く、多数の方が当院のブースを訪ねられ盛況に行うことが出来ました。また、普通救命講習Ⅲを取得の看護師によるAEDの取扱いについてイベントとして行い多数の参加がありました。

本年度は、ほとんどの地域が初めての出展であり、至らぬ点多々ありましたが、関係各位の協力を得て無事に終えることができました。農業祭当日には、「今日はありがとう。」「来年度も来てね。」等いろいろな意見や暖かい言葉をかけて頂きました。今年度の反省を踏まえ各地域のニーズに沿った出展ブースを設け、地域から信頼される病院を目指していきます。



血圧測定	1,490名	6会場	12日間
体脂肪測定	834名	5会場	10日間
血管年齢	885名	2会場	4日間
AEDの取扱いについて	21名	1会場	1日2回実施

外来診療担当医一覧表

受付時間 午前8時30分～午前11時30分 ※救急の場合はこの限りではありません。 平成28年1月1日現在

診察科	曜日	月	火	水	木	金
内科	1診	畠 山	田 上	西 脇	若 山	林
	2診	西 脇	岩 下	中 村	林	田 上
	3診	前 田	前 田	寺 倉	西 脇	前 田
	4診	林	畠 山	田 上	畠 山	岩 下
	5診(初診)	田 上	西 脇	林	前 田	畠 山
	血液外来		大学医師 (第2・4火曜日 午後)			
	循環器内科				大学医師 8:30～11:00	大学医師 8:30～11:00
禁煙外来					前 田 (予約制)	
外科	1診	飯 田	二 村	飯 田	飯 田	二 村
	2診	岡 田	岡 田	岡 田	二 村	岡 田
整形外科	1診	熊 澤 (予約制)	馬 場	リウマチ外来	熊 澤 (予約制)	四 戸
	2診	馬 場	熊 澤	四 戸	四 戸	馬 場
小児科	午前	井 上	井 上	井 上	井 上	井 上
	午後	予防接種 (予約制)		予防接種 (予約制)		
眼科	午前	松 原	松 原	松 原	松 原	松 原
	午後				学童外来 (15:30～16:30)	
耳鼻咽喉科		大学医師 午前 (9:00～11:00)			大学医師 午前 (9:00～11:00)	
婦人科				大学医師 午前(予約制)		代務医師
皮膚科		福 嶋	福 嶋	福 嶋	福 嶋	福 嶋
泌尿器科		岡 野	大学医師	岡 野	岡 野	岡 野
麻酔科		濱 屋	濱 屋	濱 屋	濱 屋	濱 屋
胸部外科					大学医師 午後第2.4	
脳神経外科				大学医師 午後		
歯科口腔外科	1診	杉 山	杉 山	杉 山	杉 山	杉 山
	2診	大学医師				

休診日／土曜・日曜・祝日・年末年始

※毎月、医事課窓口
保険証のご提示をお願いします。

当院では
各種健診を
行っています。
お気軽に
お尋ね下さい。

*年に一度はご自分の健康状態を把握するために、
健康診断を受診しましょう。

- ・入院ドック(一泊二日ドック)
- ・外来ドック(半日ドック)
- ・肺がんドック
- ・各種定期健診

お問い合わせ
地域保健課まで
月曜～金曜 8:30～17:00
TEL.0584-33-2175
FAX.0584-33-2176

*健診終了後、ご希望の方を対象に保健師・管理栄養士による生活指導を行っています。
ご希望の方は受付の際にお申し出下さい。

看護師募集中

☎0584-32-1161

詳しくは病院総務課まで
お尋ねください。

ボランティア募集中

ボランティアの方を
募集します。

詳しくは病院総務課まで
お尋ねください。



岐阜県厚生連病院所在地

